

札親会だより

第56号

平成31年 3月15日発行

発行者: 社会福祉法人 札親会

理事長 室田 昌幸

編集者 札親会本部

～最近の動きから～

理事長 室田 昌幸

2019年、今年は「変わり目」の年です。

平成31年は4月いっぱいまで終わり、5月1日に皇太子殿下が新天皇に即位されて「改元」となり、新しい元号に変わります。統一地方選挙も4月7日と4月21日に行なわれます。

北海道の知事選挙は4月7日に投開票ですが、16年ぶりの与野党の新顔対決の選挙になりそうです。このあと7月には参議院議員選挙が行なわれます。

札親会は現在、利用者470人、職員336人の大世帯になりましたが、今年は施設長をはじめ職員の大規模な人事異動が4月1日付で行なわれます。

どの業界も人手不足で求人難の世の中ですが、札親会には幸い今年は18人の新人が加わりました。

施設長も12人の内8人が異動、職員全体では5分の1が今回、職場を異動します。

小生も現役時代、転勤の多い仕事で2年から3年位で家族ぐるみで引っ越しを続けて来ました。北海道の北見から九州の福岡に転勤したこともあり、辞令を受けた時はびっくりしましたが、今考えると良い人生経験でした。

新しく札親会に入った人、別の職場に異動する人、それぞれ人間関係、環境、交通手段等も変わり、なにかと大変だと思いますが、「健康第一」です。体に気をつけてチームワークで新しい仕事を乗り切ってください。

次に札親会の新年度の施設建設の目玉事業である菊水ワークセンターの隣にグループホームなどの施設を新設する計画については、現在、札幌市を通じて国に補助申請をしております。今の所、順調に進めば6月に補助の内示、8月後半に着工、来年の3月中に完成という段取りで補助内示通知を期待して待っているところです。

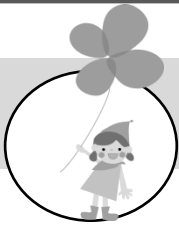


A. NAKAHARA



札親会職員のみなさん!
新年度からまた頑張りましょう!





「 想いは、か・た・ちへ 」

札幌親会 事務局

現在の菊水ワークセンターは、２００３年度に国庫・札幌市の補助金により建替工事を行なっておりますが、当時は、菊水ワークセンターの隣りに札幌市が多目的型の「知的障がい者福祉センター」を建設し、菊水ワークセンターと渡り廊下で繋げるという夢のような計画がありました。

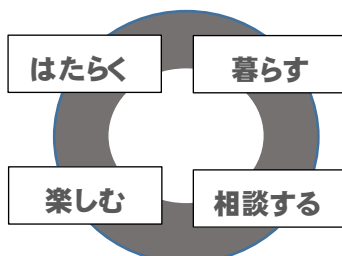
しかし、その後の札幌市の財政状況の急激な悪化や福祉制度が大きく様変わりしたことに伴い、建設計画自体が凍結されたままの状態が続いてきました。

このような現状を踏まえ、法人として、地下鉄菊水駅からのアクセスが良い土地（１１２６㎡）を昨年の８月に札幌市から購入し、２０１９年度において、「はたらく」（就労事業）・「暮らす」（グループホームのばらの移転と定員増・ショースティ）・「楽しむ」（カフェ）・「相談する」（相談事業）など、利用者が地域で豊かに暮らしていくための大切な四つの機能を持つ鉄筋コンクリート造３階建の複合施設の整備を計画し、１０月上旬に札幌市と補助金交付の協議を行ない、この協議の結果、昨年末には、複数法人が競合する中で、札幌市から札幌親会の複合型の施設整備計画について厚生労働省と協議をしますとの通知がありました。

この通知を受けて、札幌親会では、厚生労働省からグループホームとショースティ事業の整備に係る補助金の内示があり次第、早ければ８月後半には建設工事に着手をし、２０２０年３月には建設工事が竣工し、４月からは複合施設としての事業を開始する予定です。

新しい施設が、菊水ワークセンターと渡り廊下で繋がることで、一体感のある運営が可能になるとともに、社会福祉法の改正に伴って、社会福祉法人に求められている「社会貢献活動」にも積極的に取り組んでいく法人としてのランドマーク的な施設の役割を担っていくことができるよう、利用しやすい施設としてのハード面・ソフト面の充実に向けて準備を進めてまいります。

統括 中原 明



「遅咲きのシクラメン」

つきがた友朋の丘

つきがた友朋の丘でシクラメンを栽培し始めて4年が経ちます。12月に種を蒔きゆっくりと発芽までに時間をかけて4月～5月にかけてやっとしっかりとした葉を造っていきます。徐々に球根が形となりどんどんと葉の数を増やしていきます。シクラメンは葉の数だけ花が咲くため、この時期は葉の数を少しでも増やすために株の中心に日差しが入るように葉組といった作業を行います。例年は12月初旬にはきれいな花を咲かせますが、去年は天候不順などの影響があり、年内はほぼ花を咲かせることもなく年を越してしまいました。

1月になり徐々に花を咲かせ、友朋の丘の温室は外の冬景色とは対照的な花畑となりました。

町内で友朋の丘のシクラメンを楽しみにしている方も多くなり、おかげさまで完売となりました。今年は12月にきれいな花が咲くことを期待して、利用者さんと小さな芽を丁寧に育てていきます。

施設長 田邊 寛



今日はうれしいひな祭り

月形町認定こども園花の里こども園



ひな人形のお飾りが、春を呼ぶように暖かい日が続いています。花の里こども園のひなまつりでは、女の子は園にある着物を着て参加します。お雛様のように素敵な着物を身にまとい、いつもより少しおしとやかな様子です。男の子たちも嬉しそうに会に参加しました。

ひな壇の見慣れないお人形やお道具、それぞれの意味や由来を司会の先生に教わり、日本の昔からの伝統を大切にする一日となりました。

ひな壇の前に座り、順番に白酒を飲みます。白酒と言っても中身は、桃のジュースです。いつも使ったことのない盃で上手に飲んでいました。ひなあられすくい、年齢が大きくなるごとに上手になって、年長さんはたくさんすくっていました。

桃の節句のひな祭り。桃には邪気を払う力があるそうです。桃のお花に桃のジュース、午後のおやつは桃ゼリー。

桃尽くしの一日で、花の里こども園の子どもたちは、元気に春を迎えられそうです。(園長 豊田 揺子)

みんな仲良く福は内!

札 北 荘

鬼は外～!! 福は内～!! 去る2月2日、土曜日稼働日に各作業エリアから元気な声が聞こえてきました。そうです、節分レクレーションを行いました! その「節分」は年に一回ではなく、実は年に四回、春夏秋冬毎にあるって知っていましたか? 節分は「季節を分ける」という意味から4回あり、季節の分かれ目には邪気(鬼)が生じるとされ、鬼退治を行うようです。その4回の内、特に冬から春に変わる一年の変わり目とされる立春に行う節分が風習として残っているようです。その大事な邪気を払う節分を例年の平日ではなく土曜日に行う事で時間にも余裕があり、豆まきの他にも豆を炒ったりする工程もあり楽しまれている方が多かったです。でも、皆さんが一番楽しんだのは、豆まきの鬼退治よりも、その後の美味しい「おやつ」だったかもしれません(笑) 記念撮影に倒したはずの鬼も仲良くパシャリ

📷 今年一年みなさんにとって良い「福」が舞い降りますように♪ 主任 山口 忍



手作りチョコは心をこめて!

さつきたそう

2月14日バレンタインデー当日、ゆめくる・ゆめきたでは女性全員で日頃の気持ちを込めてチョコブラウニー、チョコマシュマロを作りました!

事前活動として、女性利用者だけで集まり「今年は誰に渡す?」「私はあの人に渡すの!」と女子会中、心を弾ませる様子も…(^_^)

チョコブラウニーは最後にクッキーを添えたり、チョコマシュマロにはチップをかけたりと、可愛く仕上がりました。国生さゆりの「バレンタインデー・キッス」をBGMに、メッセージカードと共にラッピングをして手渡し。渡す方も受け取る方もドキドキ! チョコブラウニーやチョコマシュマロも大好評で、「また作ってね!」と会話を弾ませていました。来月はホワイトデー、今度は男性陣が張り切っています。

女性陣も当日まで楽しみに心待ちにしているところです。 (ゆめきた 澤田恭子)





「平成最後の成人式」

白石かがやき園

新年を迎えた平成31年1月13日に札幌市手をつなぐ育成会主催の平成31年成人式・新年会がロイトン札幌にて開催されました。今年は白石かがやき園から2名の新成人が参加され、晴れの舞台となりました。

秋元市長をはじめ多くの参列者の皆さまの拍手に、2名とも入場の際は普段見ることのできない緊張した表情・成人としての顔が伺えました。

保護者の皆さんへの感謝の花束を渡す場面では、ご家族の笑顔も多く見られ、微笑ましく心温まる光景でした。

新年会では豪華な食事を味わいながら、札幌北のステーション余興が始まると、一緒に参加させて頂きジャニーズWESTの「ええじゃないか」で新年のお祝いをしました。

参加された皆さんは来賓の方々との記念撮影や他事業所の方など久しぶりに会う顔に嬉しそうに新年の挨拶をされていました。

平成最後の成人式は盛大な楽しい式典となりました。参加された皆さんは来年の開催をとっても楽しみにされ、それぞれ帰途に着きました。 主任 丹野 悠



お楽しみいっぱいの新年会

菊水ワークセンター

平成31年1月19日(土)。菊水ワークセンター・スズラン・ライラックと各所属で新年会を開催しました。当日は、正月にちなんだ書初めや福笑い、かるたなど行い、普段なかなか遊ぶ機会がない内容で皆さん大盛り上がりでした。その後は、餅つき機で作ったお餅を皆さんで丸めています。初めて体験される方も多く、餅が手にくっつくなど苦戦しながらも協力して完成しました。

昼食は、いつもの給食と違うオードブル形式となっています。エビフライやフライドポテト、チキンナゲットなど皆さんが好きな料理が大皿にたくさん並び、そのほかに皆さんで丸めたお餅をお汁粉として頂き、ボリューム満点の食事となっています。

普段なかなか体験できない内容で、皆さんにとっても良い思い出となる日となったのではないのでしょうか。 市山 秀



「一年の疲れはワクワクレクでお疲れさまー!!」

札幌市社会自立センター

自立センターは就労継続 A 型事業所です。毎日が朝から夕方まで仕事中心の事業所です。世間がゴールデンウィークと、はしゃいでいても、クリーニング部門も図書館清掃部門もお仕事です。

お客様を相手の仕事には祝日は関係ないのです。なかなか連休はとれません。その対価としてお給料が皆さんに支給される訳です。愚痴を言う利用者さんは一人もいません。みんな働くことへのプライドと自信を持って日々頑張っています。(頭がさがります。)

そんな忙しい中でも、皆さんの楽しみは年に一度の旅行や仕事の後のレクリエーションです。今年度もあとわずかです。自立センターの行事の締めくくりはワクワクレクとワクワクナイトです。今回は 3 グループに分かれ実施しました。本体はポーリング大会と焼肉バイキング。

澄川と元町図書館グループは「しゃぶしゃぶ温野菜食べ放題。」

東札幌と新琴似図書館グループは、「串鳥の焼き鳥と鍋のコース」です。

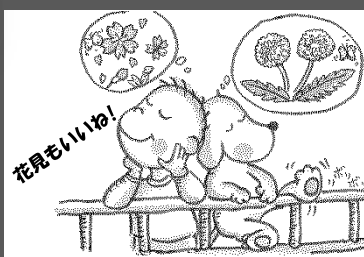
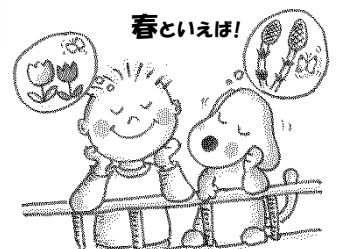
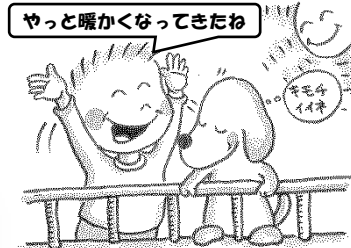
久しぶりに仲間とワイワイ話をしながら思いっきり食べて楽しんだひと時でした。

「4 月からまたがんばりましょう!」

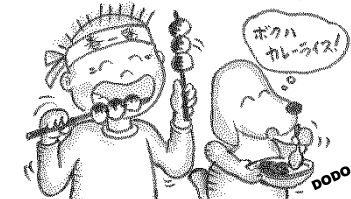
所長 佐藤典彦



春はすぐそこ!
(やっぱり定番です)



でも、やっぱり!花より団子!!



編集後記

平成が間もなく終わろうとしています。昭和生まれの私にとっては「昭和」の響きは遥か昔のセピア色の思い出となってしまいました。平成も過ぎてしまえばアッという間で、激動の時代だったように思います。

また新しい時代がやってきますが、改めて自分が生きてきた証を心に刻み、未来へ希望を持って歩んでいきたいと強く思います。

さて、春になるといつも思うことがあります。あの日見ていた故郷の山桜は今年も満開の花を咲かせます。いったいあの桜は幾つの時代を見てきたのだろうか。

(札幌市社会自立センター 佐藤典彦)

